第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：高齢者事故	
日付：11月 1日（土）曜日、セッション時間：10：45～12：15	
司会者名（所属）：川上洋司（福井大学）	
討 議 内 容	<p>セッション全体：</p> <p>高齢者、女性ドライバーの増大が想定される中で、ドライバーの属性ごとの特性（運転技術や安全意識等）に応じたきめ細かな事故対策が必要とされることの総論的共通認識をこえて、具体的にドライバーの属性（性別、年齢、そして世代等）を特性（運転技術や安全意識等）と対応させてどのようにカテゴライズするのが妥当なのか、また特性に応じた効果的な対策がありうるのか、ありえるとしたら属性ごとにどのような具体的な対策が考えられるのか、といった点に関する問題提起、今後の研究課題が示された。</p>
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：（101）北川博巳（兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所）</p> <p>今後増大することが確実視される女性高齢者ドライバーに着目し、過去のアンケート調査結果に基づいて、運転意識やニーズ面での特徴を抽出した結果に対して、女性高齢者ドライバーという属性に着目するねらいそのもの、どのような属性対応型の事故対策が考えられるか等に関して討議がなされた。著者からは、女性ドライバーの特質と考えられる「補償行動」を考慮した安全講習等が考えられるとの回答があった。</p>
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：（102）井本智之（北海道大学大学院）</p> <p>ベイズ型コホートモデルを用い、交通事故（経年的全国死亡事故）データにもとづいて、事故発生の年齢、時代、世代の三つの効果を抽出、さらに近未来の事故発生を予測した成果報告に対し、三つの効果それぞれの意味や関連性、事故対策に資する本研究の今後の展開等について討議がなされた。世代効果に着目し、それを年齢、時代効果と切り離して抽出したことに意義はあるが、その解釈（どのような事象と関連するか等）と今後の対策に対する示唆について今後期待する等の意見が出された。</p>
	<p>（発表番号）発表者名（所属）：（103）松本幸司（国土交通省国土技術政策研究所）</p> <p>高齢者ドライバーによる事故が多発している状況（出会い頭、右折時）に対して、実際に走行実験を行い、高齢者特有の事故要因の抽出、効果的と考えられる対策の効果検証に関する結果が報告された。高齢者という属性の共通性と多様性（運転経験や安全意識等）を考えた場合、高齢者に固有の効果的 accident 対策としてどのようなことが考えられるか等について討議がなされた。また、高齢者を対象に走行実験を行なう上での留意点等についての質疑もなされた。</p>
	以上 3 篇